

エビデンスと共に考える「いのち」と「暮らし」を豊かにする講座

第5回

客観性の 落とし穴？

村上 靖彦 氏 大阪大学大学院人間科学研究科 教授
大阪大学CIDER (兼任)三浦 麻子 氏 大阪大学大学院人間科学研究科 教授
大阪大学CIDER (兼任)

会場参加 (※事前申込要) / オンライン参加 (申込不要)

2023年8月25日 (金) 19:30 ~ 20:30

・グランフロント大阪 北館 2F SpringX
・オンライン: YouTube Live

エビデンスと共に考える「いのち」と「暮らし」を豊かにする講座

2021~2022年度の2年間、大阪大学感染症総合教育研究拠点(CIDER)は、『感染症から「いのち」と「暮らし」を守る講座』を通じて、パンデミックという緊急事態に対応する方法をお届けしてきました。今年度からは、パンデミック後の社会や将来のパンデミックをみすえて講座をリニューアルして、科学的根拠(エビデンス)と上手に付き合いながら、私たちの「いのち」と「暮らし」を豊かにする術(すべ)を皆さんと一緒に考えていきたいと思います。大阪大学のさまざまな分野の研究者が、中学生から大人までを対象に、わかりやすく解説する全12回のプログラムです。

講座概要

今回の講義は、「数値による知識」と「経験」のずれと重なり合い、というテーマでお話しします。

村上教授の近著『客観性の落とし穴』で提唱されているのは、すべての真実が客観性と数値に基づいていると思いつく現代の状況への疑問です。ですが、それは決してエビデンスに基づく科学を否定するものではありません。数値を通じて外部から物事を見つめ、理解する自然科学や社会科学の視点は、非常に有益です。しかし、個々の経験や背後のストーリーは、常に客観的な知見や数値に収めることはできません。それぞれの経験に焦点を当てることで、エビデンスによる知見がより豊かになります。

今回は、数値による分析を得意とする三浦教授と、経験を重視する村上教授との対談形式で行い、科学的なエビデンスと個々の経験の間にはどのような関係があるのかを再考します。

この対談を通じて、我々の世界を理解するための新たな視点を見つけることを期待しています。それぞれの視点が相互補完し、一緒に働く様子を、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

講師



村上 靖彦 氏 大阪大学大学院人間科学研究科 教授 / (兼) 大阪大学CIDER

2000年パリ第7大学で博士号取得 (基礎精神病理学・精神分析学博士)。

専門は哲学および現象学的な質的研究。著書に『在宅無限大』(医学書院)、『子どもたちが作る町』(世界思想社)、『ケアとは何か』(中公新書)、『交わらないリズム』(青土社)、『「ヤングケアラー」とは誰か』(朝日選書)、『客観性の落とし穴』(ちくまプリマー新書)、他。



三浦 麻子 氏 大阪大学大学院人間科学研究科 教授 / (兼) 大阪大学CIDER

博士(人間科学)。専門は社会心理学。コミュニケーションやインタラクションが新しい「何か」を生み出すメカニズムを解明することに関心をもつ。感染禍という「状況の力」が人間の心理・行動に与える影響について量的アプローチで検討している。

▶ 8月25日開催講座の詳細・
会場参加申込・オンライン視聴はこちら<https://kc-i.jp/activity/chogakko/cider2023/detail20230825.php>

▶ 過去の講座はアーカイブで視聴できます。

<https://www.cider.osaka-u.ac.jp/project/project01.html>主催 成 CIDER (大阪大学感染症総合教育研究拠点), 一般社団法人ナレッジキャピタル
日本財団

問い合わせ 大阪大学感染症総合教育研究拠点 事務局 (総務担当)

☎ 06-6879-4903

✉ kansensyo-soumu@office.osaka-u.ac.jp

🌐 <https://www.cider.osaka-u.ac.jp/index.html>